

兵庫県姫路市（国内4例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る
疫学調査チームの現地調査概要

令和3年11月17日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 農場の周辺環境

- ① 当該農場は、山間部に位置し、付近は雑木林や竹やぶに囲まれ、2つのため池が隣接している。調査時、農場周辺の雑木林には地面の掘り返し後など、野生動物の痕跡が確認された。
- ② 調査時、発生農場から0.8kmの距離にあるため池でヒドリガモ38羽、3.5kmの距離にあるため池でコガモ17羽、カルガモ8羽などの水鳥類が認められた。
- ③ 当該農場はウインドレス鶏舎4棟があり、発生時には全ての鶏舎で採卵鶏が飼養されていた。発生鶏舎は最もため池に近い鶏舎であった。

2 通報までの経緯

- ① 飼養管理者によると、発生鶏舎における発生前1週間の1日あたりの死亡鶏は、2～12羽の間で推移していたとのこと。
- ② 飼養管理者によると、11月16日に発生鶏舎で77羽の死亡があり、鶏舎内の固まった場所で死亡しており、同一ケージでの複数羽の死亡も確認されたことから、その日のうちに家畜保健衛生所に通報したとのこと。
- ③ 疫学調査時には、発生鶏舎で死亡やチアノーゼ、沈鬱等が確認された。

3 管理人及び従業員

- ① 当該農場では従業員8名が勤務しており、鶏舎内作業担当3名、集卵作業担当4名、鶏糞処理作業担当1名が作業に従事していた。
- ② 鶏舎内作業を担当する3名については、担当鶏舎が決まっておらず、ローテーションで担当していたとのこと。

4 農場の飼養衛生管理

- ① 飼養管理者によると、従業員は出勤の際、農場内の駐車スペースに車を止め、農場入り口付近の事務所まで歩き、農場専用の作業着、長靴、手袋に交換していたとのこと。また、各鶏舎に入る際は、鶏舎毎に専用の長靴と手袋を着用し、設置してある踏み込み消毒槽を使用していたとのこと。
- ② 鶏舎横の飼料タンク上部には蓋が設置されており、タンク内への野鳥等の侵入やタンク内の飼料への野鳥の糞等の混入の可能性は低い状況であった。
- ③ 飼養管理者によると、飼養鶏への給与水は井戸水を利用しており、消毒は実施しておらず、年1回程度水質検査を実施していたとのこと。
- ④ 発生鶏舎からの鶏糞は、農場敷地内にあるコンポストに搬出し、堆肥化していた。堆肥場には防鳥ネットが設置されておらず、野鳥が侵入可能と思われた。
- ⑤ 飼養管理者によると、健康観察時に回収した死亡鶏は、農場敷地内の焼却炉あるいはコンポストで処理していたとのこと。
- ⑥ 飼養管理者によると、ロットごとにオールイン・オールアウトを行っており、オールアウト後は鶏舎内の清掃・消毒を行っていたとのこと。
- ⑦ 飼養管理者によると、従業員の通勤車両を含む車両が農場敷地に入場する際、農場入り口に設置された消毒ゲートで車体及びタイヤ回りを消毒していたとのこと。
- ⑧ 発生鶏舎であるウインドレス鶏舎の構造は、鶏舎壁面上部から給気し、鶏舎奥側の壁面に設置された換気扇から排気するタイプの鶏舎であった。給気面に金網が設置され、排気用の換気扇の外側には開閉可能な板が設置されていた。

5 野鳥・野生動物対策

- ① 飼養管理者によると、農場内ではネズミ、カラス、ネコを見かけることがあるとのこと。調査時には、発生鶏舎とは異なる鶏舎内で中型哺乳類のものと思われる糞を確認した。
- ② 飼養管理者によると、発生鶏舎内でネズミを確認することがあり、ネズミ対策（殺鼠剤及び粘着シートの設置）を実施しているとのこと。調査時にも、発生鶏舎内で、ネズミ類のものと思われる糞やかじり痕を確認した。
- ③ 鶏糞を搬出するベルトコンベアの鶏舎内の蓋や鶏舎外につながる開口部に、野生小動物が侵入可能と思われる隙間が確認された。
- ④ 集卵用のバーコンベアの鶏舎外につながる開口部に、野生小動物が侵入可能と思われる隙間が確認された。